

サーチライト With Pastor Jon 黙示録 第6章 パート2

このメッセージはアップルゲート クリスチャン フェローシップの、ジョン・コーソン牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録するのを感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りょくさんの為にも、お祈りください。

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」ヘブル4:7

メッセージ by ジョン・コーソン牧師 アップルゲート クリスチャン フェローシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rin

エレミヤ書 2 章には、とても大切なことが書かれています。

あなたは主を捨てたので、このことがあなたに起こるのではないか。(エレミヤ書 2:17)

神は、反逆した民に向かって、彼らの問題を指し、「あなたたちが自分で招いたのだ！」と言われました。

あなたの悪が、あなたを懲らし、あなたの背信が、あなたを責める。

だから、知り、見きわめよ。あなたが、あなたの神、主を捨てて、わたしを恐れないのは、どんなに悪く、苦々しいことかを。(エレミヤ書 2:19)

「その背信が、あなたたちを苦しめているのだ。」

「わたしではなく、あなたたちが犯した罪が、自分自身を付け狙い捕まえるのだ。」

これは、霊的な生活では誰もが理解しておくべき事で、黙示録 6 章の中で、キッチリと清算されています。

世は皆、一丸となって宣言しました。

「この男に世を渡さない！自分たちの好きなようにするのだ！」

「自分らしく生きていきたい！」

結果、神は言われました。

思い違いをはいけません。神は侮られるような方ではありません。

人は種を蒔けば、その刈り取りをもすることになります。(ガラテヤ 6:7)

自分の肉のために蒔く者は、肉から滅びを刈り取り (ガラテヤ 6:8)

その罪は必ず身に及ぶことを知らなければならない。(民数記 32:23)

今夜、神は、皆さんと私に言われます。

「わたしがあなたを罰するのではない。

なぜなら、あなたに下されるべき裁きは、わたしの息子イエスが既に受けている。

だから、あなたの罪は、もう赦されている。

もうあなたの罪を思い出さない。」

もうあなたの罪を思い出さない。(イザヤ書 43:25)

東が西から遠く離れているように、私たちのそむきの罪を私たちから遠く離される。(詩篇 103:12)

「あなたは赦されて自由だ。

しかし、これだけは覚えておきなさい。

悔ってはいけない。どんなものでも、あなたが蒔いたものは芽を出す。」

その罪は必ず身に及ぶことを知らなければならない。(民数記 32:23)

どの罪が、ではなく全ての罪が、あなたを捕らえるのです。

あなたがついた“良い”嘘、こっそり見ている真夜中のテレビ番組すべて、

所得税申告の小さなごまかし…。

「覚えておきなさい。

神であるわたしではなく、あなた自身が犯した罪が、罪そのものが、あなたを捕まえるのです。

例外はない。」

主を恐れることは知恵の初め(箴言 9:10)

主を恐れるとは、どういうことでしょうか。

主を恐れることは悪を憎むことである。(箴言 8:13)

「ジョン、今日は黙示録の学びに来ているのに、どうしてそんな話をするのか？」

理由は二つ。

一つは、6章に直接関わってくるから。

自分自身の罪、世の罪が襲いかかって噛みついてくるから。

二つ目は、私にとってはもっと重要なことですが、これ以上、人が罪に蝕まれていくのを見たくないから。

思い違いをしてはいけません。(ガラテヤ 6:7)

その罪は必ず身に及ぶことを知らなければならない。(民数記 32:23)

いのちを守るために、今夜、今ここで罪から離れましょう。

さて本題です。

地の権利書の封印が解かれました。

これから代価が支払われることになります。

また、私は見た。小羊が七つの封印の一つを解いたとき、四つの生き物の一つが、雷のような声で「来なさい」と言うのを私は聞いた。(黙示録 6:1)

美しいセラフィムが「来て、見なさい」と言いました。

私は見た。見よ。白い馬であった。それに乗っている者は弓を持っていた。
彼は冠を与えられ、勝利の上にさらに勝利を得ようとして出て行った。(黙示録 6:2)

御言葉に書かれていることを、しっかり把握して下さいね。

教会は天国に上げられています。

その間地上では、まず初めに、白い馬に乗った男がやって来ました！

「やった！やったー!!!」と世は言うでしょう。

「伝道とか聖書とか言っていた小うるさいクリスチャンたちが消えてしまったことも、彼らがどこに行
ったかなんてことも、知ったことか！」

「見ろ！誰が出動の準備をしているか。誰が登場しようとしているか！」

白い馬に乗った者と言っても、これは 19 章に出てくる白い馬に乗った方とは違います。

あちらは神の御子。

私たちには、この 6 章 2 節に登場する者と、19 章の方との違いが分かりますね。

白い馬に乗った人と共に誰が来るかを見てください。

19 章で主が戻って来られる時には、素晴らしい仲間が一緒。

つまり私たちが一緒です。

けれどもここを見ると、こちらは別の馬に乗った 3 人と共にやって来て、それはそれは、おぞましい悪
の仲間です。

では、この、白い帽子をかぶって、白い馬に乗っているのは誰か。

まず注目すべきは、彼が弓を持っていること。

弓と言えはすぐに弓矢を思い浮かべますが、ここでは違うようです。

聖書に初めて登場する“弓”は、ここで使われているのと同じ単語ですが、それは“レインボー”“虹”
でした。

“虹”は神の契約だと創世記に書いてあります。

「それはわたしと地との間の契約のしるしとなる。」(創世記 9:13)

契約の内容は、

「もはや大洪水が地を滅ぼすようなことはない。」(創世記 9:11)

「わたしは雲の中に、わたしの虹を立てる。

それはわたしと地との間の契約のしるしとなる。」(創世記 9:13)

よく考えて下さい。

私たち教会が、携挙によってここからいなくなった後、誰がやって来ますか？

ダニエル書 9 章 27 節には、イスラエルと 7 年間の契約、平和条約を結ぶため、ある者が現れると書いて
あります。

そして全世界は言うのです。

「やったー!!! 遂にエルサレム問題解決だ!!!」

「イスラエルとパレスチナ、ユダヤ人とアラブ人の間に平和がもたらされた！」

聖書に書かれたその人物の名は、『反キリスト』

彼は、白い帽子をかぶり、白い馬に乗って、ヒーローとして登場します。

面白いことに、彼は白い馬に乗って来ますが、頭の冠を見て下さい。

ここで使われている単語は、[DIADEM] ではなく [STEPHANOS]

[DIADEM] はイエスがかぶる本物の冠。

宝石が埋め込まれ、金でできた永遠の冠。

[STEPHANOS] はオリーブの枝と葉でできたリース。

暫くすれば枯れてなくなる冠です。

それは、反キリストも、最終的にはこの世から消えてしまうからです。

彼は白い馬に乗り、STEPHANOS をかぶっている。

手にある弓は、ダニエル書 9 章 27 節に書かれた 7 年契約を示していると、私は考えます。

勝利の上にさらに勝利を得ようとして出て行った。(黙示録 6:2)

彼は勝利を収めるためにやって来ます。

では、どのように勝利するのでしょうか。

よく聞いて書き留めて下さい。

ダニエル書 8 章は、反キリストについてははっきりと語っています。

彼らの治世の終わりに、彼らのそむきが窮まるるとき、横柄で狡猾なひとりの王が立つ。(ダニエル書 8:23)

これが反キリストです。

彼の力は強くなるが、彼自身の力によるのではない。(ダニエル書 8:24)

彼はサタンに支配されているので、その力はサタンから来ています。

彼は、あきれ果てるような破壊を行い (ダニエル書 8:24)

どうやって？

それは 25 節に書かれています。

『And by peace』(平和をもって) he shall destroy many (彼は多くを滅ぼす) (ダニエル書 8:25 KJV)

反キリストがどのように現れるかという点、彼は和平交渉人、平和の人として現れ、勝利を得るのです。

第 2 テサロニケ 2 章に書かれている通り、携挙の直後に、これらのことが始まります。

私たちが取り除かれると、すぐに反キリストが白い馬に乗って来る。

そして世の中は歓喜する。「彼こそが、平和をもって勝利を得るその人だ！」

彼は 7 年の和平条約を提示する。

7 年の半分が経過した時、その条約を破る。

7 年の真ん中で、弓をへし折って、自分を神として拝むように命令し、本性を世にさらけ出す。

その時、世は、反キリストが当初考えられていた『良い人』ではないことに気づき、恐れに包まれる。

反キリストは、白い馬に乗ってやって来て、世は彼を受け入れます。

イエスはこのことについて言っていました。

わたしはわたしの父の名によって来ましたが、あなたがたはわたしを受け入れません。
ほかの人がその人自身の名において来れば、あなたがたはその人を受け入れるのです。(ヨハネ 5:43)
イエスはロバに乗って、柔和にへりくだって来られましたが、世は「この男には支配させない！」
それで、彼らが受け入れたのは反キリスト。
これは人間が犯した罪の、紛れもない結果です。
人間はイエス・キリストを拒んだ。
よって、人間は反キリストに従うことになる。
いいですか！
これは神の罰ではなく、人間の罪と反逆の当然の結果なのです！

では、反キリストが共に連れてくるのは誰でしょう。ビックリです。
反キリストが現れると、第2の封印が解かれます。
私は、第二の生き物が、「来なさい」というのを聞いた。(黙示録 6:3)
すると、別の、火のように赤い馬が出て来た。
これに乗っている者は、地上から平和を奪い取ることが許された。
人々が、互いに殺し合うようになるためであった。
また、彼に大きな剣が与えられた。(黙示録 6:4)
白い馬に乗った反キリスト、平和の人に従って出て来た第2の馬は『戦争』

どんな人に対してでも、政治力で問題が解決されると期待するのは大きな間違いです。
なぜなら、政治は権力が全てだから。
権力を得、それを維持することが全てです。
しかし権力がもたらすものは崩壊。
絶対権力は絶対に滅びます。
何が原因で、あなたがたの間に戦いや争いがあるのでしょうか。
あなたがたのからだの中で戦う欲望が原因ではありませんか。(ヤコブ 4:1)
権力を欲し、領土を欲しがる。
そして、権力はいつでも戦争を引き起こす。
だから、政治的に平和をもたらすことができると考えている全ての人も、国家問題の政治的解決策を探し求めるいかなる教会も落胆させられることとなります。
また、戦争はいつでも、白い馬に乗った者のように偽装し、それが妥協案のように見せかけます。
偽物の愛国心と英雄魂を駆り立て、旗を振り、歌を歌い、色とりどりのパレードによって戦争の悲惨さが隠される。
すると人々は、「戦争は受け入れられる範囲だ。正義のためだ。いいことだ。」と肯定し始めるのです。
しかし私は、声を大にして言います！
それは違う！

イエスは、ペテロが剣を抜いたあの日、こう言いました。

「剣をもとに納めなさい。」(マタイ 26:52)

彼らがイエスを王にしようとして推した時、イエスは政治的に利用されることを拒んで、「ここは、わたしたちの居場所ではない。」と言って立ち去りました。

同じように、私たちが剣を抜いて正義の戦争をしようとする時、イエスは「それを置きなさい。」と言います。

「それはわたしのやり方ではない。」と平和の君が言うのです。

私が言いたいのは、平和がいけないのではなく、戦争は地獄だということ。

愛国心の名の下に正当化しようと偽装し、そうではないのにヒーロー物語のように作り上げてしまう。

それは、墮落し、惑わされ易く、残忍という人間の本質の一部です。

だから白い馬(政治)の次に赤い馬がやって来るのです。

そしてその次、第3の封印が解かれて登場するのは、

小羊が第三の封印を解いたとき、私は、第三の生き物が、「来なさい」と言うのを聞いた。

私は見た。見よ。黒い馬であった。

これに乗っている者は量りを手に持っていた。

すると私は、一つの声のようなものが、四つの生き物の間で、こう言うのを聞いた。

「小麦一楮は一デナリ。(日当) 大麦三楮も一デナリ。(日当)

オリーブ油とぶどう酒に害を与えてはいけない。」(黙示録 6:5 - 6)

戦争の後には、必ず『飢饉』が起こります。

見ての通り、まずは政治、権力。

今の時代でもそうです。

それに続くのは戦争。

今、話をしているこの瞬間、この国でも、水面下ではいつも戦争が起こっています。

それは1年、10年、15年と隠されていますが、15年か20年毎に必ず表面化します。

なぜなら、いつも権力と関係しているから。

今までもこれからもそうです。

そして国家間でも、企業対企業でも、戦争は必ず飢饉をもたらします。

しかし、その影響を受けない人たちがいる。

それは富裕層。

聖書時代、オリーブ油とぶどう酒は、贅沢の象徴でした。

もし、オリーブ油とぶどう酒に害が与えられなければどうなりますか。

たとえ戦争や飢饉の時であっても、世界の富裕層は、更に裕福になり続けるのです。

飢饉は、必ずしも戦争の後に起こる肉体的なものだけに限りません。

私たちが生きる今もそうですが、自然のバランスの崩壊によっても起こります。

戦争も外的なものとは限りません。

この国で私たちが直面しているのは経済的な戦争。

私たちもバランスが崩れ、もうメチャクチャです。

何百万人という人たちが、毎日、やり甲斐もなく働いています。

自分たちが吸う空気を汚染しながら、アスファルトの上をものすごいスピードで走る機械を動かして帰宅し、法外な価格の電気の箱の前に座る。

その箱は画像をちらつかせ、その幻像を見る者にこれを買えと言う。

そして翌日、再び彼らは起き上がり、「また無意味でつまらない仕事に行かなければ…」。

機械で害を撒き散らしながら職場に行き、自分が吸い込む空気を汚染しながら、わずかの時間も惜しんで、自分や周囲の人たちの命の危険も顧みず急いで帰宅し、次はこれを買えと言うその箱を見る。

これが無限に続きます。

狂っている…。

どうしてそうなるのでしょうか。

それは、色んなことがおかしくなっているからです。

今の時代はおかしいと感じているなら、教会が取り去られた後はどうなるのでしょうか。

飢饉。

小麦の値段が一日の日当と同額というのは、患難時代には全ての物が制限されて、経済的に大変厳しいということを示しています。

これは、反キリストが制定する制度の一部で、黙示録 13 章の獣の刻印の箇所でお話します。

それまでここにいればの話ですが。

世はますます暗くなっていく。

まず、政治的手腕を発揮する者が現れ、世は「今度こそ！」と喜びます。

ところが戦争、続いて飢饉。

不平等が増大し、金持ちは更に豊かになりますが、大多数の人たちは、わずかな小麦や大麦のために一日働いてその日当を費やし、贅沢とは無縁になるのです。

そして、**小羊が第四の封印を解いたとき（黙示録 6:7）**

私は見た。見よ。青ざめた馬であった。（黙示録 6:8）

文字通り、病気の馬。

イメージ的には漂白された青白さ、又は緑がかった青白さ。

とても醜い馬です。

これに乗っている者の名は死といい、そのあとにはハデスがつき従った。

彼らに地上の四分の一を剣とききんと死病と地上の獣によって殺す権威が与えられた。（黙示録 6:8）

“地上の獣”はギリシャ語で『Therion』

この単語の獣は、巨大な恐竜やモンスターのようなものではなく、「あらゆるサイズの恐るべきもの」を指します。

私が思うに、第 4 の封印が解かれて現れる獣、世が欲望のままに動いた結果もたらされる獣とはごく微細なもの。

エイズやエボラ出血熱。

私たちが生きる、この荒れた世を見て下さい。

政治家を見ていると、いや、クリスチャンでさえも、その言動はまともではなく、それが最終的には戦争を引き起こすのです。

政党間の、企業間の争いが、最後には国家間の戦争を生み、血を流すことになる。

そして来るのが飢饉。

肉体的のみならず経済的な不正、それらが人々を病ませるのです。

第四の獣…

つづく

主の日はすべての国々の上に近づいている。

あなたがしたように、あなたにもされる。

あなたの報いは、あなたの頭上に返る。(オバデヤ書 15)

、事をなして成功し、有力者たちと聖徒の民を滅ぼす。」

